

多久北部 ジュニアバレーボールクラブ



ハードな練習を頑張るメンバー

「継続は力なり」毎日の練習を真剣に！ 新メンバーも募集中

「多久北部ジュニアバレーボールクラブ」は小学3～6年生12人(女子9人・男子3人)で、週4回午後5時から7時30分まで北部小体育館で練習に励んでいます。月2回程度は県内外へ練習試合に行き、経験を積んでいます。「返事をする」、「挨拶をする」、「大きな声を出す」がチームのモットーです。

練習は、基礎トレーニング、基本のパスの練習、ボールを使っての練習をします。体育館に集合するとすぐ基本トレーニングを開始。体づくりに力を入れ、柔軟体操から走り込みまで、1時間程時間をかけて行います。

豊田一義監督は、「まず練習することが大事。毎日コツコツと真剣に継続することで、出来なかったことも、出来るようになります。練習を通して粘り強い子どもたちになるような指導をしています」と話し、運動が苦手な子やボールを怖がっていた子も上手になっていき、子どもたちは体力と精神力を養っています。

新入部員も募集しています！興味のある方はぜひご連絡ください。

問 豊田 一義 ☎090-3198-4368

●連載18● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『多久の炭鉱と石炭展』

昭和47年(1972年)11月、新明治佐賀・西杵炭鉱が閉山し、今年で40年になります。

江戸時代中期に採掘が始まった多久の石炭は、幕末になると外国船の燃料などに需要が高まり、多久領の大きな財源となりました。

明治時代になると、多くの方が石炭の採掘に携わり、小規模の炭鉱が乱立するようになりました。その後、明治鉱業や三菱鉱業といった大手が進出し、多久5町村の人口も約5万人となるなど石炭産業は隆盛をきわめます。しかし、日本のエネルギー政策が石炭から石油へと転換し、国内の炭鉱はすべて閉山。多久市においても東多久町の豎坑槽や多久駅東側の石炭積込場が往時のたたずまいを残すのみとなっています。

「多久の炭鉱と石炭展」で展示している資料のほとんどは、多久町の細川章さんが閉山後の炭鉱跡を歩くなどして収集されたものです。また、写真パネルは山口



鉱山小城炭鉱に勤務されていた相島幸雄さんが撮影されたもので、炭鉱風景だけでなく人々の暮らしや風俗におよぶ貴重な資料です。

▲相島幸雄さん撮影の小城炭鉱のボタ山
(東多久町山ノ上から池ノ平付近)

多久市郷土資料館ミニ企画展

多久の炭鉱と石炭展

会場 / 多久市郷土資料館 2号・3号展示室
会期 / 10月5日(金)～12月5日(水)
開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料
休館日 / 月曜日(月曜日が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

われを看取る明るき孫に助けられ
梅雨ごもる日々を平穩に過ぐ

のびのびと柿の若葉は展がりて
西陽の窓に影動くなり

嫁ぎ来て五十七年の歳月は
忍耐一途ひまわりの咲く

おばあちゃん大丈夫ねと覗きこむ
孫のやさしさに疲れ吹き飛ぶ

吉井勇に及びはせねど幽明境
梶原恵美子

へだててもなおお君は佳き人
尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

新涼の襟元に来し里の風
不二見恵美子

まろまろと太りて月は中天に
森山 抱石

蛸や羅漢の顔に夕日さす
納富 芦風

頼まれて物買ひに行く油照り
野田キヌ子

献立に迷った末の秋刀魚かな
田中久美子

川柳

《多久市川柳会 互選》

本を読み吸い込まれゆく別世界
大谷 和

絵本読み澄んだ心を取りもどす
古賀ちひろ

いい噂貰って帰る里の風
井上 東子

逆風を追風にして生きている
高塚チカ子

嫌われてどの国守るオスプレイ
西山 残月